

デジタル加工の推進により、歯科技工物の品質向上と社員の労働環境の改善を両立。

横浜を拠点に長野、青森など、全国6カ所に展開する歯科技工所「TDS」。デジタル化による生産効率の向上に力を入れ、安価で高品質な技工物を提供できるようになったことで、売り上げを急激に伸ばしている。代表取締役の辻忠司さんにその快進撃の理由を伺った。

取材文／長田英一 撮影／高橋将志

株式会社TDS 代表取締役

辻忠司

Tadashi Tsuji

——歯科技工士になった当初から、経営者としての独立を考えられていたとお聞きしました。

辻 私は祖父も父も歯科技工士という家庭で育ち、子どもの頃から自然と歯科技工士になるのだろうなという気持ちは芽生えていました。ただ、個人開業していた父を見ていて、個人ではなく組織で仕事をすれば、様々な課題がある歯科技工業界も少しは変わるのではないかと、歯科技工士から歯科技工所の経営者に興味が移っていったのです。

が上がった分、単価を抑えることができましたので、価格面での勝負にも負けなくなってきました。

——デジタル化によって変わったことは他にもありますか？

辻 一番変わったことは、歯科医院の先生方とのコミュニケーションをとる時間ができたことです。アナログ時代はワックスアップを作って術前術後の変化などを説明していましたが、

それで、自身が起業するときのために、歯科技工士専門学校を卒業後、社員が数名の小規模ラボから院内ラボ、社員が100人程度の大規模ラボと様々な規模の歯科技工所に勤めました。それぞれにメリット、デメリットがあり、自分が会社を興すときにもその経験が役に立っていると思っています。

——29歳の若さで開業されたのですね。

辻 会社を立ち上げた当初は、ど

その際に模型を発送したり、営業部員が直接持つて行って、その都度先生から要望を受けて修正していかっていました。時間が非常にかかっていたので、それがデジタル化したことで、データを送信して、パソコンの画面を共有しながら、「これはどうですか。もう少しこうしますか」などと、ボタン一つで修正が可能になったのです。また、口腔内スキャナーでの印象についても、送ら

うやって利益を出していこうかと試行錯誤していましたが、半年後にCAD/CAM冠が保険適用となり、状況が好転したのです。これはターニングポイントになると感じ、デジタル化の設備投資を始めました。当時は、私を含めて社員が2人しかいなかったのですが、スキャナーやミリングマシンは一番安いものを買入しましたが、それでも減価償却にどれくらいかかるだろうという不安もありました。また、デジタルについて詳しいスタッフがいなかったため、ワックスアップした模型をスキャンし、それを削っていたので、マテリアルが変わっただけで、やっている作業は基本的にアナログと変わらず、本当のデジタル化とは程遠いものだったと思います。そこから試行錯誤を重ね、デジタル技工の経験豊富なスタッフが入社したこともあり、現在では口腔内ス

れてきたスキャンデータを確認して、「この位置が不鮮明なので、もう一度スキャンしてもらえますか」というようなお願いを歯科医院にできるようなりました。これにより、具体的にエラーの箇所まで戻って先生方とお話できますので、「コミュニケーションがスムーズになりましたし、圧倒的に時間を短縮することができていると思います。歯科医院さんとしても、お送りしたデータを

キヤナーを使用したモデルレス加工が可能になりました。クライアントである歯科医院のご要望や症例に合わせてですので全てではありませんが、モデルレス加工については従来の3分の1の時間に短縮できています。生産効率の向上によって回転率

そのままチェアサイドの画面で患者さんと共有できますので、タイムレスなやり取りができるようになったのは、多方面に良い影響を及ぼしているのではないのでしょうか。

——一方向だったベクトルが双方向になり、両者の理解が進んだことで時間を短縮できているということですね。

辻 まさしくそうです。その時間短縮によって、スタッフ間のコミュニケーションも増えましたし、新しい技術を学ぶ時間もできました。生産効率が上がったことで、様々な時間を確保できるようになったのが大きいですね。ただ、3本以上のブリッジになると、写真を何枚も重ね合わせで合成データを作りますので、その距離が長くなれば長くなるほどズレという歪みが生じてしまい、再製になるケースがあります。その辺が今後の課題になるのかなと思っています。

——特に口腔内スキャナーを導入したばかりの歯科医院ですと、そういったことが生じがちですね。

辻 そうですね。ただ、そういった歯科医院さんには、毎日百症例以上のスキャンを行っている当社のスタッ



Profile 辻忠司(つじ・ただし)
歯科技工士専門学校を卒業後、数件の歯科技工所勤務を経て、2014年に「TDS」を設立、2016年に株式会社化。早くからデジタル技工を推進し、労働環境を改善。自費技工のみならず保険技工にも積極的に取り組んでいる。

